

I4C ワークショップ : Carbon Markets and the SDGs: A Critical Role for Sustainable Development in Article 6 & Beyond 傍聴報告

(一社) 海外環境協力センター (OECC)

本記事は、2019 年 6 月 4 日～7 日にシンガポールで開催された Innovate4Climate (I4C) におけるワークショップの傍聴報告です。

- タイトル : 炭素市場と SDGs: 6 条とその先の持続可能な開発への重要な役割 (Carbon Markets and the SDGs: A Critical Role for Sustainable Development in Article 6 & Beyond)
- 日時 : 2019 年 6 月 5 日 (水) 9:30 - 10:30
- 主催 : German Emissions Trading Authority, Gold Standard
- 場所 : Simpor Jr 4812
- モデレーター (敬称略) : Friederike Erxleben (Policy Advisor, German Emissions Trading Authority, German Environment Agency)

概要

- SDG13「気候変動」への緊急アクションニーズは IPCC 特別報告書 (SR1.5) に明確に示されているにもかかわらず、いまだパリルールブック、中でも協力的アプローチ (6 条) にはギャップが生じている。炭素市場は CO2 削減だけでなく国の開発課題及び Agenda2030 へインパクトをもたらすことを証明したが、既存の市場メカニズムや SR1.5 からどのような教訓が得られたのか、また SDG の他目標への最小限の損失及び最大限の貢献へどうアプローチするのかを本セッションでは展開する。

発表内容 (敬称略)

1. Christof Arens (Project Coordinator for Climate, Environment and Energy, Wuppertal Institute)

- パリ協定 6 条をさらに発展させるために、緩和行動及び持続可能な開発も 6 条でカバーする。そのためには Harm Principle (危害原理) を構築しないようにする必要がある。具体的には、人権侵害の回避、ネガティブな経済インパクトの回避、環境十全性の確保が挙げられる。これらを遵守するために、実行に係るセーフガードの策定、ステークホルダーコンサルテーション、苦情処理／申し立てのメカニズム (Grievance Mechanism) を考慮する等の対応が考えられる。

2. Owen Hewlett (Chief Technical Officer, Gold Standard)

■ SDG 影響評価ツール

(https://www.goldstandard.org/sites/default/files/documents/sdg_tools_programme_overview_sept_2018.pdf) は、プロジェクト開発者等の非国家主体に対し、彼らの気候変動対策の影響を定量化し、それを報告する方法により信用性を高める。

- プロジェクトによる気候変動対策を SDG 指標ごとに分類することで、そのプロジェクトのインパクトが他の SDG 指標の達成につなげることができ、プロジェクトに基づいた妥当な指標選択による定量化が容易になる。

3. Carsten Warneche (Founding Partner, NewClimate Institute)

- 緩和を目的としたプロジェクトへ SDG 指標を組み込むことにはいまだ障壁がある。4 条と SDG は国際的な合意がされている重要なアプローチであり、SDG に関しては包括的かつマクロレベルな枠組みであり、それらをプロジェクトレベルに落とし込むようにしていく。

4. Thomas Forth (Senior Policy Advisor, Federal Ministry for the Environment of Germany)

- 6 条における様々なメカニズムの発展を詳細に分析することは国際交渉の一つであり、持続可能な開発を促進させる。
- パリ協定 6 条にはまだ課題があるが、完成させることが期待されている。そのため市場メカニズムを詳細に分析し、一新しなければならないかもしれない。

5. Marco Magini (Director Projects & Portfolio Management, South Pole)

- CDM 市場はすでに崩壊しており、そのため South Pole として行うべき Voluntary Market における戦略を即座に立て、Project Developer と Market Player としての以下の 2 つのアプローチを取っている。
- Project Developer としては、SDG に関する政策理解やどの戦略が妥当なのか等、何が現場で効果的なのかを見ている。
- 一方、Market Player としてはクライアントとしての側面もあり、定量化後の影響や SDG におけるインパクトの大きさ等で貢献度を見ることができ、かつ両者は比較が可能である。
- Project Developer にとっては、SDG に関するモニタリングレポート、導入コストそしてレベルの高いベリフィケーションが大きな壁となっている。また実地でのアクションに係るモニタリングコストは、追加的に SDG インパクトも測らなければならないために高くなってきている。



これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official report by the meeting organizer. Do not quote.

(報告者：OECC 雨宮身佳)
